

MJIIT にマレーシア政府高等教育省イデュリス大臣来訪

高等教育省イデュリス大臣が12月8日、MJIT に公式訪問された。目的は現在の教育・研究の進捗状況視察のためである。デュリシャー・クアラランブールキャンパス長からの概要説明の後、ルビヤ院長からは主に教育組織および大型プロジェクトの説明があり、学生数、教員数の推移および予算概要、さら新しく整備される防災教育に関する組織体制について言及された。

イデュリス大臣からは、日本との従来の教育・研究の一層の連携はもとより今後、大型プロジェクトなどを通じて大学院の学生教育を協働で進めていただきたいこと、2018年以降の MJIT の発展のためには、日本式教育と MJIT との間で特徴あるユニークな教育・研究体制の構築が必要であることを強調された。その後、分子生物学および生態工学両講座の実験室を視察され、実験室内の設備がだいぶ整っている様子に感心を示された。岩本先生からは、藻類・エネルギープロジェクトの推進状況、さらにつくば学園都市が日本の科学技術研究集団の集積地であることの説明に大変興味を示された。杉浦教授からは、筑波大学として学園都市の地の利を生かし、MJIT に協力していることをお話した。最後の軽食時には、12月15日に筑波大学への訪問を楽しみにしているとのことでした。



日本の顕微鏡の説明：左；岩本浩二准教授、イデュリス大臣、杉浦則夫教授



リフレッシュメント：左；3番目黒沼一等書記官、MJIT 副院長小林教授、岩本准教授、杉浦教授、デュリシャーキャンパス長、イデュリス大臣、ルビヤ院長